

鶏 けいめい 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

イエスの言葉

『兄は「いやです」と答えたが、
後で考え直して出かけた』
聖書(マタイ福音書21章 29 節)
牧師 河合裕志

イエスは「二人の息子」のたとえ話をした。それはこんな話～ある時父親が兄息子に「子よ、今日、ぶどう園へ行って働きなさい」と言った。すると息子は「いやです」と答えたが、後で考え直して出かけた。次に父親は弟息子にも同じことを言うと「お父さん、承知しました」と答えたが、出かけなかった～

これだけの話。なんとも簡潔明瞭。兄息子は最初はいやですと拒否の姿勢。ぶどう園へ行って汗水流して働くのは骨が折れる。ここでゴロンとしていたい。あるいは他にやることもある…ということでNOと言った。これはよくわかる。私達現代人の行動基準は、それはラクか、楽しいか、と言ったところ。渡辺和子の「面倒だから、しよう」とは大分異なる。

ところがこの兄息子は後で考え直して、重い腰を上げて出かけたと言う。どんな心境の変化? ここはオヤジに従った方がよいだろう。これまで色々世話になっているし、これからのこともある。自分のしたいことは後でもいいか～こんな判断か。

一方の弟息子。「承知しました」と立派な返事。しかし言うだけで行かなかった。その訳は矢張りラクしたい、楽しいことをしたいということだったろう。

イエスはこんな話に続けて、これを聞いていた祭司長や民の長老達に質問。『この二人のうち、どちらが父親の望みどおりにしたか』。これはやさしい問いかけ。彼らは「兄の方です」と返答。

これは私達もそう思う。要は実行。いい返事ばかりで実践が伴わなければ。当初兄息子の返事はよくなかったが考え直して行動へと切り換えることが出来てよかった。

イエスは祭司長らの答を待ってこう言う。『徴税人や娼婦たちの方が、あなたたちより先に神の国に入るだろう。なぜなら、ヨハネが来て義の道を示したのに、あなたたちは信ぜず、徴税人や娼婦たちは信じたからだ。あなたたちはそれを見ても、後で考え直して彼を信じようとしなかった』。

イエスはこれを言いたいんでこのたとえ話をしたみたい。徴税人らは祭司長らから見れば唾棄すべき連中、神の国からほど遠い。しかし徴税人らは洗礼者ヨハネの説教を聞いて悔い改めた。しかしあんた方お偉いさんは一向に考え直す風が見られない。悔い改めの必要はないと。それじゃ神の国入りは難かしい～と。何事も場合によって考え直す柔軟性があってよいかも。そして実行。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

求道者会：日曜日午前9時40分

中高青年会：日曜日礼拝後

お話し会、卓球：水曜日午後1時～7時

お祈り会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時